

# 三重県小児セラピー研究会第4回

日時 2018年6月17日(日) 13:30~16:45(13:00開場)  
場所 鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス B 講義棟3513教室  
参加人数 109名

共催 三重県小児科医会、三重県医師会、三重県理学療法士会、三重県作業療法士会、三重県言語聴覚士会、  
三重県訪問リハビリテーション協議会、三重県訪問看護ステーション連絡協議会、  
三重県立子ども心身発達医療センター、三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター  
後援 三重県

総合司会挨拶 13:30~13:35

東久保和希(ひがしくぼ かずき)

明和病院なでしこ 理学療法士



開会の辞 13:35~13:40

二井 英二(にい えいじ)

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部理学療法学科 教授



ミニレクチャー 13:40~14:35 触らせてちょうだい 身体図式と食べること

演者: 刀根 奈穂美(とね なほみ)

有限会社だいち ナーシングホームもも 作業療法士・言語聴覚士



座長: 伊藤 卓也(いとう たくや)

主体会病院 総合リハビリテーションセンター



## 基調講演 14:50～16:35 脳性麻痺の療育における ST の役割

演者: 椎名 英貴(しいな ひでたか)

社会医療法人 大道会 森之宮病院 リハビリテーション部 部長 言語聴覚士



座長: 米田 敏樹(よねだ としき)

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 言語聴覚士



閉会の辞 16:35～16:40

島中 泰彦(はたなか やすひこ)

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部理学療法学科 学科長



### ～第4回三重県小児セラピー研究会を終えて～

事務局 訪問看護リハビリステーション桜 寺島 秀幸

実践 小児言語聴覚療法というテーマにて、第4回三重県小児セラピー研究会が開催されました。109名の方が参加し、過去3回の研究会に比べ言語聴覚士や療育に関わる方の参加が増えていました。

前半は、有限会社だいちナーシングホームもも 刀根 奈穂美(とね なほみ)先生のミニレクチャーでした。訪問看護ステーションにて看護師や地域の関連施設の方と協業しながら子供たちの問題に取り組まれていることもあり、子供たちの医療的・療育的ケアを24時間行う母親との関わり方や生活の中での作業療法・言語聴覚療法という幅広い視点でのリハビリテーションを展開されていました。

後半は、全国のリハビリテーションを牽引する社会医療法人 大道会 森之宮病院 リハビリテーション部 部長 言語聴覚士の椎名 英貴(しいな ひでたか)先生の基調講演でした。子供たちの療育における言語聴覚士の役割を詳細な部分まで説明いただきました。子供たちのリハビリテーションに関わりたいと言語聴覚士の道に進んだ先生が、たくさんの実践の中から辿り着いたセラピストの役割は、時間を延長して更に深く聞かせていただきたい内容でした。

様々な専門職が、様々な視点で関わりチャレンジしていくことが重要であると両名のご講演を通して教えていただきました。当研究会も様々な視点での小児セラピーを紹介し、今後取り組みたいと感じる仲間が一人でも増え、多くの子供たちのチャレンジを増やし、子供たちの未来の可能性を最大限に引き出せるように取り組んで参ります。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。